

教員の研究成果 < 受賞・表彰・研究成果・採択 >

本学公式 Web サイトに掲載された記事をご紹介します。
< 2017 年 7 ～ 9 月 >

理工学部 教授 牧野 光則

< 受 賞 > 電子情報通信学会「教育優秀賞」

本賞は、電子情報通信にかかわる産業の高度化とグローバル化に向けて、新時代に対応する電子情報通信分野の人材育成を促進するために、今年度新設されたものです。牧野教授は、理工学部情報工学科が 2008 年に開始し、その後、大学全体に展開している「段階別コンピテンシーによる教育の実践・評価」の主担当者として活動しています。本育成プログラムの一連の取り組みが、電子工学および情報通信分野の教育の実践において顕著な成果をあげ、当該分野の教育の発展に寄与したことが認められ、受賞に至りました。

理工学部 教授 米満 賢治

< 表 彰 > 日本学術振興会平成 28 年度特別研究員等審査会専門委員（書面担当）及び国際事業委員会書面審査員 表彰

本表彰は、日本学術振興会が実施している特別研究員事業及び国際交流事業の審査を行う専門委員に対し、有意義な審査意見を付した専門委員が表彰されます。平成 28 年度は、約 600 名の中から 158 名が選ばれました。

研究開発機構 機構教授 檜山 爲次郎

「先導的物質変換触媒技術の創出」ユニット（代表：理工学部教授 石井 洋一）

< 受 賞 > アメリカ化学会キッピング賞

フレデリック・スタンレー・キッピング賞 (Frederic Stanley Kipping Award) とは、ケイ素化学分野において、重要な功績をあげた人物に授与される賞です。1960 年にダウコーニング・コーポレーションにより設立されました。

研究開発機構 機構教授 福岡 捷二

機構准教授 田端 幸輔

持続可能な河川・流域システムの研究プロジェクト（研究代表：福岡 捷二）

< 受 賞 > 土木学会河川技術論文賞

< 受賞論文 > 「平成 27 年 9 月洪水における鬼怒川下流区間の流下能力、河道貯留及び河道安定性の検討」
本論文による、河川分野の学術・技術の貢献度、発展性等が評価されての受賞となりました。

研究開発機構 機構教授 福岡 捷二

機構教授 内田 龍彦

（論文発表時）
持続可能な河川・流域システムの研究プロジェクト（研究代表：福岡 捷二）

< 受 賞 > 土木学会論文賞

< 受賞論文 > 「非平衡粗面抵抗則を用いた一般底面流速解析法の導出と局所三次元流れへの適用」
本論文において独創的な業績をあげ、これが土木工学における学術・技術の進歩、発展に顕著な貢献をなしたと認められ、受賞となりました。

研究開発機構 機構准教授 田端 幸輔

持続可能な河川・流域システムの研究プロジェクト（研究代表：福岡 捷二）

< 受 賞 > 河川技術に関するシンポジウム優秀発表者賞

< 受賞論文 > 「堤防脆弱性指標に基づいた堤防破壊危険性評価に関する研究—鬼怒川中下流部平成 27 年 9 月大洪水を例として—」

文学部教授山口真美 (代表) 科学研究費助成事業「新学術領域研究 (研究領域提案型)」に採択

研究領域「トランスカルチャー状況下における顔身体学の構築 — 多文化をつなぐ顔と身体表現」

研究期間：平成 29 ～ 33 年度



YAMAGUCHI Masami

本研究領域では、顔と身体表現の意識化されない点を意識化することにより、文化の中で閉じたコミュニケーションを理解し、異文化が相互に行き交うトランスカルチャー状況下における他者の受容を導くことを目標とします。顔と身体表現の営みを意識化し、文化の多様性とその背景要因を明らかにすることで、他者と異文化を理解し、受容することを目指します。具体的には、顔と身体表現をめぐる（1）文化による多様性がどのように存在しているかという現象を具体的に探り出し、（2）文化による多様性が形成されるメカニズムを解明し、（3）顔と身体表現の多様性がどのように社会形成に影響しているかを、人文社会学的アプローチにより考察します。さらに、

30 を超える海外の共同研究先との連携を通じて、顔と身体表現をもとにした新たなグローバル化の発想と知見を提供します。

審査においては、「無意識に行われる顔と身体表現を意識化するプロセスを通じて、文化の多様性とその背景要因を明らかにすること」、さらに「異文化理解と受容を目指すというユニークさ」、かつ「学際性と国際性を兼ね備えた提案であること」が評価されました。

新学術領域研究（研究領域提案型）とは

研究者または研究者グループより提案された、わが国の学術水準の向上・強化につながる新たな研究領域について、共同研究や研究人材の育成等の取り組みを通じて発展させるための研究種目です（期間 5 年、単年度当たりの助成の目安は 1 領域 1,000 万円～ 3 億円程度）。

< 本学から 2 件採択 >

科学技術振興機構（JST）研究成果展開事業「地域産学バリュープログラム」

本プログラムは企業ニーズ解決に向けた公募型の研究費支援とマッチングプランナー等による研究開発活動の支援により、産学協働の芽出しを支援するものです。応募件数は 1,132 件で、そのうち採択されたのは、理工学部庄司一郎教授、総合政策学部平野廣和教授の提案を含む 136 件です。

庄司教授は露光装置や 3D プリンター等の光源として用いられる紫外固体レーザーの小型化・高効率化を実現できる波長変換デバイスの開発を提案し、採択されました。平野教授は貯水槽の耐震性を向上する制振装置の実用化を提案し、採択されました。

研究責任者	採択課題
理工学部 教授 庄司 一郎	「小型で高効率な紫外固体レーザーを実現する新構造波長変換デバイスの開発」
総合政策学部 教授 平野 廣和	「既存貯水槽の耐震化向上のためのバルジング振動に対応した制振装置の開発」

< 採択 >

科学技術振興機構 JST「戦略的創造研究推進事業（CREST）」

本事業は、わが国の社会的・経済的ニーズの実現に向けた戦略目標に対して設定され、インパクトの大きなイノベーションシーズを創出するためのチーム型研究を推進するものです。

角田機構教授らの研究チームは、法令や約款などの法的文書の作成を AI 技術を導入したソフトウェアシステムにより実現する研究提案を行い、採択されました。本領域の応募件数は 32 件で、そのうち採択されたのは、角田機構教授らの提案を含む 6 件です。

研究代表者	採択課題
研究開発機構 機構教授 角田 篤泰	「AI 技術を用いた法的文書作成支援」

< 本学から 7 件の研究成果を出展 >

イノベーション・ジャパン 2017 ～大学見本市 & ビジネスマッチング～

イノベーション・ジャパンは、大学等の研究成果を社会に還元するきっかけの場として毎年 2 万人以上の企業関係者が来場する、日本最大の産学マッチングイベントです。厳しい審査の結果、本学からは 7 件の研究成果が採択され、8 月 31 日、9 月 1 日の 2 日間、東京ビッグサイトに出席し、教職員および実際に研究を担当している学生が説明にあたりました。

教員名	分野	研究成果
総合政策学部 教授 平野 廣和	防災	液体輸送車両の液動による危険性を排除するための制振装置の開発
理工学部 教授 鈴木 寿	情報通信	人間の矛盾を改善できる人工知能ロボットの推論コア
理工学部 教授 小松 晃之	ライフサイエンス	人工酸素運搬体制剤 “ヘモアクト™”
理工学部 教授 大石 克嘉	装置・デバイス	自身の温度を自在に制御可能な CO ₂ 吸収ユニットの構造と実際の作製
理工学部 准教授 諸麥 俊司	医療	衣服の上から筋活動量を検出するセンサと医療福祉向けの柔軟なロボットスーツ
理工学部 准教授 土肥 徹次	医療	ウェアラブル血圧脈波計測デバイス
理工学部 助教 長津 裕己	装置・デバイス	ダイレクトインテリジェントサーボアクチュエータ（DDISA）の提案